

IX 史料編集事業

1. 事業概要

(1) 史料編集班の沿革

復帰前の昭和 42 年（1967）琉球政府立沖縄史料編集所が創設され、復帰とともに沖縄県沖縄史料編集所と改称。昭和 61 年（1986）行政改革により県立図書館に併合され、沖縄県立図書館史料編集室と改組、平成 7 年（1995）沖縄県公文書館の設置に伴い移転、翌 8 年、史料編集業務が教育庁文化課所管の委託業務となり財団法人沖縄県文化振興会公文書館管理部（後に公文書管理部）史料編集室となる。平成 19 年（2007）指定管理者制度導入に伴い財団法人沖縄県文化振興会史料編集室と改名、平成 23 年（2011）組織改編により教育庁直轄となり、沖縄県教育庁文化財課史料編集班となる。

(2) 歴代宝案の編集・刊行

『歴代宝案』は、中・近世の 444 年にわたる外交文書集で、厩大かつ難解な漢文史料であるが、沖縄の対外交貿易史および外交交渉史を解明するうえで第一級の史料であり、東アジア世界の動向をも知りうる貴重な史料である。歴代宝案編集事業の目的は、本文を校訂し、訳注本を作成して、これを利用しやすい形に編集することによって、今後の歴史研究の進展に役立て、あわせて一般への普及を図り、国際化時代における県勢発展の基礎資料として活用できるようにすることにある。

沖縄県教育委員会では、平成元年度（1989）から『歴代宝案』の編集事業に着手し、平成 3 年度（1991）から刊行を開始した。校訂本は諸本を校合し異同を注記した本を 15 冊、訳注本は校訂本の漢文を全文読み下し文に改め、語注やルビを付し、『歴代宝案』の理解を補完するもので同じく 15 冊、計 30 冊の刊行を予定している。これまでに校訂本 15 冊、訳注本 11 冊の合計 26 冊、歴代宝案編集参考資料 19 冊を刊行した。平成 24 年度から沖縄振興特別推進交付金による「琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業」として採択され、歴代宝案の編集刊行が大きく推進されることとなった。

(3) 沖縄県教育委員会と中国第一歴史档案馆との「協議書」に基づく交流事業

歴代宝案の編集作業においては、国内外の関連史料も参照することが必要不可欠である。中国に残る膨大な琉球関係資料を活用するため、平成 3 年（1991）3 月、「清代の档案マイクロフィルムの相互交換に関する覚書」の調印が行われた。その後「覚書」を「協議書」と改め、平成 27 年には 6 度目の調印が交わされた。これまで 10 回にわたってマイクロフィルムの提供があり、総計は 3,323 件、1 万 1,571 コマにのぼる。また、沖縄と北京で交互にシンポジウムを開催し、これまでに 11 回開催され、『琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』11 冊を刊行した。毎年、档案馆から参考人として研究者 2 名を招聘し、延べ 52 人が報告を行った。平成 17 年度（2005）から『中琉歴史関係档案』の出版委託を行い、39 冊を刊行した。

(4) 新沖縄県史の編集・刊行

新沖縄県史編集事業は平成 5 年度（1993）にスタートした。先に刊行した「沖縄県史」は明治の琉球処分から沖縄戦までを取り扱った近代史であったが、「新沖縄県史」は、先史から現代までの全時代と自然環境等を対象とした体系的な歴史書を編纂し、沖縄の歴史認識、文化意識の一層の活性化を促すことを目的とする。

平成 6 年（1994）「新沖縄県史編集検討委員会」のもとで「新沖縄県史編集基本計画」がまとめられたが、その後平成 9 年（1997）「新沖縄県史編集委員会」が設置されて基本計画の見直しがなされ、平成 10 年（1998）「新沖縄県史編集基本計画」が策定された。平成 22 年（2010）、再び基本計画の見直しが諮問され、平成 24 年（2012）には新たな「基本計画」が策定された。

これまでに、「沖縄県史各論編」7 冊、「沖縄県史資料編」25 冊、「沖縄県史図説編」1 冊、「県史

ビジュアル版」13冊を刊行した。その他「沖縄県史研究叢書」、「概説 沖縄の歴史と文化」、「沖縄県史だより」や各種目録、紀要などを刊行するとともに、各種の資料収集調査を実施している。

2. 主な活動

(1) 委員会の開催及び編集・刊行活動

新沖縄県史編集委員会（1回）・専門部会（刊行計画検討専門部会1回、沖縄戦1回、図説編前近代4回、民俗4回、現代5回）、歴代宝案編集委員会（1回）及び作業部会（3回）など計20回の委員会及び専門部会を開催した。また、図説編前近代編集協力会議を17回、ベッテルハイム日記日本語翻訳編集協力会議を16回開催した。

また『沖縄県史 研究叢書 18 沖縄の民俗資料』『『沖縄県史 研究叢書 19 植物標本より得られた近代沖縄の新聞 II』『歴代宝案 訳注本 第14冊』『歴代宝案編集参考資料 18 「歴代宝案」訳注本 第14冊 語注一覧表』『歴代宝案編集参考資料 19 琉球王国の外交文書—歴代宝案への誘い「歴代宝案」校訂本全15冊刊行記念シンポジウム報告集』『(新訂版) 歴代宝案の栞』『中琉歴史関係档案 道光朝(九)』『中琉歴史関係档案 道光朝(十)』『中琉歴史関係档案 道光朝(十一)』『沖縄史料編集紀要』第41号、『沖縄県史だより』27号などを編集・刊行した。

(2) 史料調査収集・交流事業（史料編集事業）

交流事業（歴代宝案）

1) 中国第一歴史档案馆より参考人招聘

目的：歴代宝案の編集作業に資するため、歴代宝案編集委員会において、中国第一歴史档案馆の研究者・専門家の意見を聴取する。

期間：平成29年11月15日（水）～19日（日）

概要：下記の2名を招聘し、歴代宝案編集委員会で参考意見報告を行った。

胡 忠良（中国第一歴史档案馆 副館長）

「旅順博物館所蔵崇禎帝琉球国王を冊封する勅諭について」

李 健民（中国第一歴史档案馆 満文処整理科科长）

「清代琉球国王印についての一考察」

2) 琉球関係資料集の出版委託

中国第一歴史档案馆が所蔵する琉球関係史料を年代順に整理し、内容提要を付して出版する。

2006年（平成18）からスタートした事業で、これまでに39冊を出版した。

(3) 琉球王国の交流史に関する史料調査収集事業（沖縄振興特別推進交付金事業）

国内史料調査

1) 琉球王国交流史に関する史料調査

調査目的：京都陽明文庫において琉球王国交流史に関する史料調査、撮影等

調査期間：平成29年12月17日（日）～12月20日（水）

調査場所：公益財団法人陽明文庫（京都）

調査員：都築晶子（歴代宝案編集委員）・外間みどり（主幹）・早瀬千明（史料編集業務員）

概要：琉球関係漢籍及び「孔林楷杯」等程順則・蔡温関係資料の調査

成果：漢籍史料及び「孔林楷杯」等関連資料の撮影等

2) 琉球王国交流史に関する史料調査

調査目的：石垣市立八重山博物館および石垣島において琉球王国交流史に関する史跡・史料調

査、撮影等

調査期間：平成30年3月12日（月）～3月14日（水）

調査場所：石垣市立八重山博物館および石垣島

調査員：麻生伸一（沖縄県立芸術大学講師）・漢那敬子（主任専門員）

幸喜 新（史料編集業務員）

概要：①『歴代宝案』所収のロバート・バウン号事件に関する史跡・史料調査
唐人墓、崎枝湾と屋良部岳、ならさ、唐人の墓碑等。
②『歴代宝案』に出てくる漂着地に関する調査（川平、崎枝、大浜、宮良津、白保）
③『八重山島年来記』「蔵元絵師画稿帳」の漂着・異国人関係記事の調査
④航海安全の拝所に関する調査（富崎観音堂、川平観音堂〔浜崎御嶽〕、新川の
長崎御嶽、美崎御嶽、天川御嶽、宮島御嶽）

成果：撮影資料

国外調査

1) 琉球王国の交流史に関する国外史料調査（台湾）

調査目的：『歴代宝案』訳注本および琉球王国交流史に関する史料調査

調査期間：平成29年8月20日（日）～24日（木）

調査場所：国立故宫博物院図書文献館・台湾大学図書館

調査員：赤嶺守（歴代宝案編集委員）・野村直美（指導主事）・漢那敬子（主任専門員）

概要：①国立故宫博物院図書文献館において、外紀档（道光30年正月～咸豊5年正月）（咸豊5年11月・12月）（咸豊6年9月～咸豊8年8月）計68冊、奏摺档（咸豊8年正月～9月）計10冊、月摺档（咸豊4年～咸豊6年）計20冊を閲覧。
②台湾大学図書館特蔵室において、平成29年度刊行予定「（新訂版）歴代宝案の栞」への台湾大学蔵『歴代宝案』写真掲載依頼について協力願う。

成果：歴代宝案訳注本に関わる資料 外紀档より琉球関係18件、その他41件、奏摺档より琉球関係1件、その他3件、月摺档より琉球関係1件、その他7件。

（4）近代沖縄史料調査収集事業（沖縄振興特別推進交付金事業）

国内史料調査等

1) 近代沖縄史料デジタル化事業にかかる委託業務の事務調整①

目的：国立国会図書館所蔵の戦前の琉球新報原紙のデジタル化業務にかかる調整

期間：平成29年7月31日（月）～8月2日（水）

場所：国立国会図書館

人員：城間恒宏（指導主事）

概要：国立国会図書館所蔵の戦前の琉球新報原紙のデジタル化作業を平成29年8月1日に開始。その機器搬入及びスキャン結果の確認と国会図書館との調整。

成果：今年度のデジタル化に着手することができた。

2) 近代沖縄史料デジタル化事業にかかる委託業務の事務調整②

目的：国立国会図書館所蔵の戦前の琉球新報原紙のデジタル化業務にかかる調整

期間：平成29年9月19日（火）～9月20日（水）

場所：国立国会図書館

人員：城間恒宏（指導主事）

概要：国立国会図書館所蔵の戦前の琉球新報原紙のデジタル化作業を平成29年8月1日に開始。その作業が完了したため9月20日に作業機器の撤去と確認を行う。また次年度の作業に関して国立国会図書館と情報交換を行った。

3) 近代沖縄史料デジタル化事業にかかる資料調査①

調査目的：昨年度に引き続き、植物標本に使用された新聞の中から戦前の沖縄の新聞を探す。またあわせて、牧野文庫にある近代沖縄関係史料を閲覧する。

調査期間：平成29年10月16日（月）～10月20日（金）

調査場所：高知県立牧野植物園

調査員：城間恒宏（指導主事）・小野まさ子（指導主事）・当山昌直（史料編集業務員）・赤嶺香澄（史料編集業務員）・佐治暁人（史料編集業務員）

概要：新聞資料13箱（1箱約690枚）約8,970枚の仕分けを行う。

成果：明治42年の琉球新報5点を確認。牧野文庫にて『鹿児島県大嶋及沖縄県動植物標本報告書』等を閲覧した。

4) 近代沖縄史料デジタル化事業にかかる委託業務の事務調整③

目的：国立国会図書館における次年度作業の調整および國學院大學資料等デジタル化の委託業務にかかる調整を行う。

期間：平成29年11月27日（月）～11月29日（水）

場所：東京：国立国会図書館、國學院大學折口博士記念古代研究所
神奈川：ニュースパーク（日本新聞博物館）

人員：城間恒宏（指導主事）

概要：①国立国会図書館へ次年度デジタル化作業にかかる説明を行う（著作権処理等）
②國學院大學折口博士記念古代研究所において、借用資料（琉球新報・沖縄日報の主に昭和11年11月、昭和13年及び昭和15年約1,488面）の事前確認、美術梱包および搬出を行う。琉球新報と沖縄日報の昭和14年の原紙は國學院大學図書館に保管されていることを確認。
③日本新聞博物館 鴨居分館において、借用資料の事前確認及び美術梱包と排出を行う（沖縄朝日新聞ほか2件 12面）④ムサシ・イメージ情報株式会社（株式会社Nanseiが部屋の一部を賃貸、借用資料のスキャンを行う作業場とする）において、借用資料の搬入と開梱・確認、及び作業場の確認を行う。

5) 近代沖縄史料デジタル化事業にかかる委託業務の事務調整④

目的：國學院大學図書館資料等デジタル化の委託業務にかかる調整を行う。

期間：平成29年12月12日（火）～12月13日（金）

場所：東京：東京大学明治新聞雑誌文庫・國學院大學図書館
神奈川：ニュースパーク（日本新聞博物館 鴨居分館）

人員：城間恒宏（指導主事）

概要：①東京大学明治新聞雑誌文庫では、借用資料（琉球新報・沖縄新聞・沖縄朝日新聞・沖縄民法などの附録）の確認、資料の梱包、搬出を行った。
②國學院大學図書館では、借用資料（昭和14年の琉球新報・沖縄日報）の確認、資料の梱包及び搬出を行った。
③日本新聞博物館では、借用資料の返却を行った。

成 果：東京大学明治新聞雑誌文庫および國學院大學図書館の戦前沖縄の新聞資料を借用し、スキャニング作業を開始することができた。またスキャニングを終えた日本新聞博物館の資料を返却することができた。

6) 近代沖縄史料デジタル化事業にかかる委託業務の事務調整⑤

目 的：國學院大學折口博士古代研究所、國學院大學図書館、東京大学明治新聞雑誌文庫資料等デジタル化の委託業務にかかる調整を行う。

期 間：平成29年12月24日（日）～12月25日（月）

場 所：國學院大學折口博士記念古代研究所、國學院大學図書館、東京大学明治新聞雑誌文庫

人 員：小野まさ子（指導主事）

概 要：①ムサシ・イメージ本社（スキャニング作業場所）にて、借用資料返却のための梱包作業（國學院大學折口博士記念古代研究所資料2箱・國學院大學図書館資料1箱・東京大学明治新聞雑誌文庫資料1箱）。

②借用資料を各所蔵機関の担当者に返却。

成 果：スキャニング作業を終えた國學院大學折口博士記念古代研究所、國學院大學図書館、東京大学明治新聞雑誌文庫よりの借用資料を返却することができた。

7) 近代沖縄史料デジタル化事業にかかる資料調査②

調査目的：資料調査①に引き続き、植物標本に使用された新聞の中から戦前の沖縄の新聞を探す。

調査期間：平成30年2月18日（日）～2月21日（水）

調査場所：高知県立牧野植物園

調 査 員：城間恒宏（指導主事）・納富香織（指導主事）・当山昌直（史料編集業務員）・佐治 暁人（史料編集業務員）

概 要：新聞資料27箱（1箱約600枚と想定）約16,200枚の仕分けを行う。

成 果：沖縄関係記事が掲載されていた大阪朝日鹿児島沖縄版・沖縄タイムス・朝日新聞・大阪毎日新聞・九州日日新聞・大阪朝日新聞 附録九州朝日・読売新聞・毎日新聞・東京朝日新聞など16点を確認。

(5) 歴史資料のデジタル化（沖縄振興特別推進交付金事業）

①歴代宝案訳註本第2冊のテキスト化（634頁）

②歴代宝案訳註本第3冊のデジタル化・テキスト化（526頁）

③歴代宝案校訂本第9冊・10冊・14冊・15冊のデジタル化（画像データ化）

④琉球関係档案史料のデジタル化・テキスト化（清代琉球関係档案五編 747頁）

⑤琉球関係档案史料のデジタル化・テキスト化（台湾故宫博物院蔵『清代琉球関係史料彙編 宮中档 上巻』等 291頁）

(6) 諸外国との交流に関する歴史史料の編集・刊行（ベッテルハイム日記翻訳）

ベッテルハイム日記および書簡の補遺（1849年および1850年）の和文翻訳